

Israel Monthly Trends

2025年7月

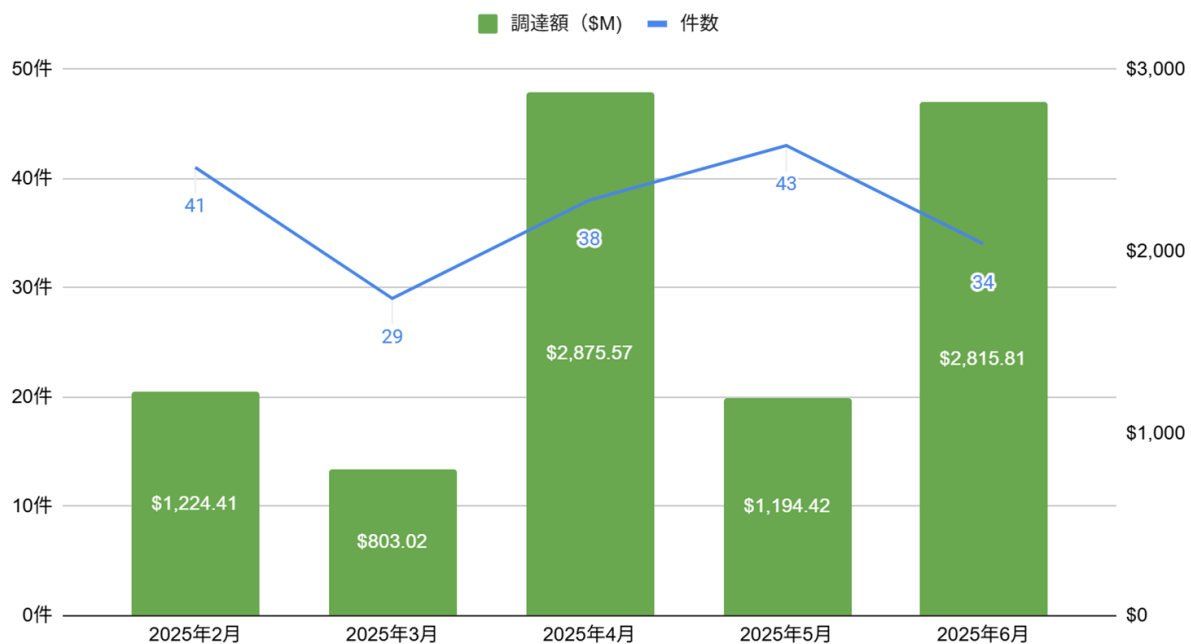
目次

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. イスラエルの現在の状況_7月 | p.2 |
| 2. 今月の注目テーマ： 気候テック | p.3 |
| 3. 気候テックに関連するスタートアップ | p.4 |

1. イスラエルの現在の状況_6月

2025年5月16日から6月15日におけるスタートアップへの資金調達動向は、案件数が34件で、調達額の合計は28億1,581万ドルであった。前回（4月16日から5月15日）の資金調達に比べて、案件数は減少したが、調達総額は増加した。

イスラエル・ハイテク企業 月別資金調達推移



出典：IVC Data（2025年6月16日アクセス）、Jakore作成

本レポートの毎月のデータ収集期間は、前月16日から当月15日までとなる。

2025年5月から6月初旬にかけて、複数の企業がさまざまなラウンドでの資金調達を成功させている。エンタープライズソフトウェア・インフラ分野のCyberArk社はPIPE（私募による上場企業への投資）で11億ドルを調達し、Cyera社はシリーズEラウンドで5億4,000万ドルの資金調達を完了した。さらに、消費者向けソフトウェア分野のOddity社はPIPEで5億2,500万ドルを獲得し、Empathy社はシリーズCラウンドで7,200万ドルを調達した。

2. 今月の注目テーマ：気候テック

気候テックとは、気候変動の緩和や適応を目的とする技術分野であり、再生可能エネルギー、水資源管理、持続可能な農業、炭素除去などを含む。

イスラエルでは、気候テックを国家戦略の中核に位置づけ、気候変動対策と経済成長の両立を図る分野として明確に提示している。政府機関であるイスラエル・イノベーション庁（IIA）が主導し、研究機関、スタートアップ、国際パートナーとの連携を通じて多層的なエコシステムを形成している。

主要な取り組みと成果

2024年時点で、気候テック分野に取り組むスタートアップは946社に到達し、2023年から約20%増加した。特に「次世代食品加工」や「カーボンマネジメント」などの分野では新興企業の設立が顕著に増加しており、グローバルな技術革新拠点としての地位を強めている。また、資金調達環境も改善傾向を示しており、2024年には49社が新設され、そのうち25%がすでにベンチャーキャピタルや助成金を通じて計1,536万ドルの資金を確保している。

政府は、スタートアップ支援や研究開発拠点の整備に加え、女性起業家の育成や地域イノベーションセンターの展開など、人材育成と多様性の促進にも力を入れている。さらに、戦争や地政学的リスクにも柔軟に対応できる仕組みとして、財政支援制度「スタートアップ・ブースタープログラム」や、オンラインを活用した事業継続体制を構築した点も注目される取り組みである。

特筆すべきは、国際協力の広がりである。欧州のHorizon Europe、米国エネルギー省（DOE）との共同研究、スウェーデンやシンガポールなど他国の支援機関と連携したEARTH Global Climate Tech Alliance（E5）などを通じて、イスラエルは国際的な技術連携および市場進出における存在感を高めている。イスラエルの気候テック企業は、国際助成金の獲得実績も高く、複数国にまたがるコンソーシアム型プロジェクトでも具体的な成果を挙げている。

今後の展望

今後は、AIやバイオコンバージェンス技術との統合、米国や欧州との国際連携の深化を通じて、イスラエル企業のグローバル市場への本格的な展開が見込まれる。エネルギー、モビリティ、農業、水、循環型経済の五つの重点分野を基盤として、インフラ整備や規制改革といった制度面の強化も進められており、イスラエルは気候テック先進国としての立場を一層強固にしていくと予測される。

出典：[Israel's State of Climate Tech 2024-2025](#)

3. 気候テックに関連するスタートアップ

● Ingrediome Ltd.

(<https://www.ingrediome.com/>)

Ingrediome社は、藻類を利用した光合成精密発酵技術により、本物の動物筋肉タンパク質を再現した加工用代替肉を開発している。従来の肉と同等の味や食感を再現しつつ、環境負荷を抑えた低コストの提供を目指している点が特長である。北米と欧州のデリミート市場を対象とし、イスラエルの大手デリ企業や欧州の原料供給企業との共同研究開発契約を締結している。持続可能で倫理的、かつ経済性の高い選択肢を提供しながら、品質や価格を損なわない製品を食品業界に提案している。



● Wadis Ltd.

(<https://www.wadistechnologies.com/>)

Wadis社は、試薬を使用しない環境配慮型の水処理技術を開発している。電気パルス放電により水中で強力な衝撃波、高強度の光（紫外線を含む）、高磁場・高電場、分子のイオン化・分極、キャビテーション、非常に高い温度を発生させ、これらの物理現象の相乗効果で殺菌を行う。薬品を使用せずに高効率な消毒を実現し、幅広い微生物に対応しつつ、エネルギー消費も抑制できる点が特長である。現在は汚泥の消毒と前処理に注力しており、既存の下水処理施設の消化装置の能力を向上させ、インフラ投資を抑えつつ、処理コストと効率の大幅な改善を実現している。



● Momentick Ltd.

(<https://www.momentick.com/>)

Momentick社は、多様な衛星画像と独自アルゴリズムを活用し、温室効果ガス排出量の可視化・測定・追跡を行う解析技術の専門企業である。パイプライン、石油・ガス、廃棄物管理、金融セクターといった分野を対象に、多様な衛星データを統合・解析することで、排出実態を高精度で把握可能にしている。これにより、規制順守、ESG報告、環境情報の透明性向上を支援し、企業の気候対応を促進する。

